

瑞若会から奨学金支給

今年度より奨学金の運用が始まり、14専攻40名に合計200万円が奨学金として支給されました。

瑞若会から助成金支給

学部学生が国内で開催される全国規模の学会やこれに準ずる学会、及び国際学会で発表する場合、助成金を支給します。交通費と宿泊費の実費として、当該年度において1人1回3万円を上限として支払われます。

入学奨励金の制度について

卒業生・在校生の兄弟姉妹並びに、卒業生のお子様・お孫様が愛知工業大学へ入学した場合、入学後の申請で入学奨励金が支給されます。

寄付金を受け付けています

名古屋電気学園では、寄付を受け付けております。寄付の仕方や寄付をしたことによる減免税等のメリットもありますので、詳しくは学園のホームページをご覧ください。

<http://www.nagoyadenki.jp/support/>

皆さんからのお便りをお待ちしております

会報誌「みずわか」では、同窓生の皆さんの近況や同窓会の報告などを掲載しています。

簡単な文章と写真を添えて、下記の同窓会事務局まで、メール、郵送、FAXのいずれかでお送りください。

掲載をさせていただいた方には、粗品を差し上げます。

表紙写真について

周辺の緑に調和した自由ヶ丘キャンパス。道路に沿ってゆるやかな曲線を描く壁面が特徴的です。



愛知工業大学同窓会支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
 2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、学科、連絡先等)
 3. 支部則原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
 4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
 5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける
- ※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

会員の皆様へ

ご住所や勤務先などの変更等がありましたらお知らせください。また、地域での同窓会活動の状況など皆様からの情報や、同窓会および会報誌「みずわか」に対するご意見も、お待ちしております。

※下記のメールまたはFAXでご連絡ください。

同窓会・会報誌「みずわか」に関するお問い合わせ、申し込み、ご連絡は愛知工業大学同窓会事務局まで

郵送 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

TEL FAX TEL 0565-43-1032 月～金 9:00～16:30 FAX 0565-43-1031

e-mail mizuwaka@aitech.ac.jp

※ご登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内および大学から依頼された案内の発送のみに使わせていただき、本人の承諾なく第三者に開示することはありません。なお、個人情報の取扱いについては、HPIに明記した瑞若会個人情報保護ポリシーに準じます。

愛知工業大学同窓会誌(瑞若会会報) MIZUWAKA(みずわか)

- 発行日/2016年12月
- 発行/愛知工業大学同窓会 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247 Tel.0565-43-1032 Fax.0565-43-1031
- 発行責任者/水野 勝教
- 編集/MIZUWAKA Vol.49 編集委員会 石井 成美、岩月 栄治、宇田 秀樹、大元 司、葛谷 新一郎、倉橋 翼、後藤 時政(チーフ)、佐野 泰之、田近 みえ子、立枕 孝之、津田 紀生、中野 寛之、西 裕之、前田 賢、平松 誠治、山田 章、山田 千代美(事務局)、横井 浩治
- 印刷/株式会社 大東社 〒494-0003 一宮市三条字大平27 Tel.0586-62-1168 Fax.0586-62-1751

<http://www.ait.ac.jp/>

後藤学長が学園の理事長兼務に

後藤泰之学長が、平成28年5月10日付で学校法人名古屋電気学園の新理事長に就任し、後藤淳前理事長は、学園長・総長に就任しました。

新食堂棟「セントラルテラス」がオープン

八草キャンパスの5号館と旧2号館跡地に完成したセントラルテラスは、延べ面積1414平方メートルの鉄筋コンクリート造2階建ての建物。1階には屋内外377席の「カフェ&レスト セントラル」が、2階には屋内外248席の「マイティーハウス」が入っています。また、2階には317平方メートルの多目的スペースがあり、バーベキューにも利用できます。



セントラルテラス



カフェ&レスト セントラル



マイティーハウス



多目的スペース

同窓生から瑞若会へ寄贈品

マウンテンコーヒー株式会社を経営する岩山隆司さん(61K)から、瑞若オリジナルパックのコーヒーを寄贈いただきました。



オリジナル日本酒「三代目 瑞若」

美山錦と五百万石を使い、半田市の中埜酒造株式会社が仕込んだ純米吟醸酒です。おだやかな吟醸香とふくらみのある味わいが特徴です。購入をご希望の場合は、下記までお問い合わせください。

株式会社名槌屋(なづちや)

〒477-0036

愛知県東海市横須賀町四ノ割19番地

●営業時間: 10:00 ~ 19:00

●定休日: 第1・第3月曜日

●TEL: 0562-32-0006

●FAX: 0562-32-5344

●E-mail: naduchiya@me.com



MIZUWAKA

瑞若会会報 Vol.49

- 特集 >>> 愛工大で研究開発中の多種多様なロボット
- がんばるOB >>> 様々な分野で活躍するOB
- OB掲示板 >>> 職場の新支部誕生他

愛工大で研究開発中の 多種多様なロボット

愛工大では、ロボットミュージアムの新設や「ロボカップジャパンオープン2016愛知」の開催などを通して、ロボット研究の成果を一般の人々に公開する機会を設けています。現在、様々なロボット関連の研究が行われていますが、ロボットと一口に言っても、その形状から活用目的まで広範囲にわたっています。今回は、広い意味でのロボットをご紹介します。

災害発生時における活用を想定して

阪神・淡路大震災をきっかけに、災害発生時に活用できるレスキューロボットの開発が本格化し、愛工大でも災害現場での活用を目的とした研究が進んでいます。

2018年の事業化に向けて研究開発が進められている「Scott」**a**は、災害発生時における広範囲かつ2次災害の危険性を伴う現場での調査を想定して開発。倒壊や火事、爆発など危険性のある場所、地下鉄トンネルや地下街などの閉所、狭隘かつ長距離移動が要求される空間での活用を目指しています。平常時には社会インフラ維持管理やプラント保全作業への活用も視野に入れています。

災害現場など未知の現場で、目的に合うような形や機能を持つロボットに組み上げることができる「MMS」**b**。分解組立式ロボットなので、ロボットは小さくなり持ち運びも容易です。形態の変更はもちろん、関節や車輪などの駆動モジュールの追加で様々な動きを実現したり、カメラモジュールで撮影したり、ハンドモジュールで物を保持したりすることもできます。

目指すは聖火ランナー AIT鉄人ロボット

愛工大のイメージキャラクターである鉄人28号から命名された人型2足歩行ロボット。2020年東京オリンピックの聖火ランナーを目指して研究中。▶電気学科 知的計測制御技術研究室 古橋秀夫教授

災害救助に役 NAITO-Rescue

AIT（愛工大）+NIT（名工大）+ITO（伊藤）の合同チームで開発したのでNAITOとし、ロボカップの災害救助シミュレーション競技を目的としていたので名前にはRescueを追加。マルチエージェントシステム研究のために開発されたプログラムです。▶情報科学科 分散人工知能研究室 伊藤暢浩教授

細かい作業も得意 双腕多指ハンド ロボット

力覚（触覚情報に関する感覚）センサ情報を有効に用いることで、豆腐のような壊れやすいものも潰すことなく安全に把持でき、逆に剛体に対しては不測の外力がかかっても安定して把持し続けることができます。▶機械学科 システム制御研究室 早川義一教授

危険な場所もOK Scott
Scouting（偵察）Crawler（這って行く）Robot Technologyの略。対地適応性に優れ、操縦者が進行方向と速度の指示をするだけで不整地踏破が可能なクローラ型移動ロボットです。▶機械学科 知能機械システム工学研究室 奥川雅之准教授



災害現場で想定される段差やぬかるみでの探査や物資の運搬を目指しています。

また、形を持っているロボットではありませんが、「NAITO-Rescue」**c**は、完全自律分散型の人工知能プログラムで、都市の構造や災害シナリオなどを定量化し災害救助戦略に反映させるものです。研究はかなり進んでおり、近いうち実現できそうだとか。

日常生活の中で活用を目指す

「ロボットと暮らす日もそう遠くない」と言われるほど、生活の中でロボットを活用する取り組みが始まっています。「EV充電ロボット」**d**は、有線で充電する電気自動車の充電用ロボット。夜間にロボットが充電を行ってくれるようになることを目指しています。

「AIT鉄人ロボット」**e**は、現在は主にエンターテインメント分野で活用されていますが、将来的には安定性を向上させ、人の生活の手助けや人の能力を超える仕事を代わりに行うような生活に密着した活用を考えています。

電気自動車に充電 EV充電 ロボット

3つのモーターで充電ケーブルを引き出し・巻き取りながら動きます。▶電気学科 / パワーエレクトロニクス研究室 道木加純准教授



草刈りが安全に TMR-R11

Tracking belt Mowing Robot Rear-wheel-drive 1（開発ナンバー）1（刃の枚数）の略。45度以上の傾斜地を登坂可能。草の刈高を揃えることができます。▶機械学科 知能集積システム研究室 内田敏久准教授（H7R）



ロボットが工場から家庭へ進出するには、物体の安定な把持や操り、柔軟物体の操り、道具の使用など、高度な機能を備えた腕や指が不可欠と考えて開発されたのが「双腕多指ハンドロボット」**f**です。

他にも、科学館や博物館、美術館等の展示物まで子供を中心とした来場者を誘導し展示内容を説明する「ツアーガイドロボット」**g**や、草刈作業のできる遠隔操作ロボット「TMR-R11」**h**、池や沼での水中探査用ロボット「UER-PTF01」**i**なども研究開発されており将来が楽しみです。

多方面からアプローチ

ロボットを実用化するためには、より高度な動きをはじめとした技術の研究はもとより、生産コストなど様々な方向から研究を進める必要があります。

空気中で約50マイクロンすーっと浮き上がり、滑るように動くことによって摩擦することのない移動機構を作る「浮上ロボット」**j**や、顕微鏡や加工装置のステージとして位置と角度を自由に設定できる装置への応用を想定している「多自由度インチワーム」**k**などの技術は多方面での応用が期待されます。

また、ミニ四駆のような安価で製品個

水中で活躍する UER-PTF01

Underwater（水中の）Exploration（探査）Robot（ロボット）Promotion Tail Fin（尾ひれ推進）の略で愛称はヒロッピー。藻や網が絡まりにくい尾ひれ推進機構を持ち、ネコザメの外装をしています。▶機械学科 知能集積システム研究室 内田敏久准教授（H7R）



摩耗しない移動 浮上ロボット

空気の流れに頼る環境での使用を想定しています。▶電気学科 / パワーエレクトロニクス研究室 鳥井昭宏教授



安価なシステムで構築
ぼっち1号 mkII
共同開発していた大学院生卒業後に1人で開発したので「ぼっち」と命名。無線通信機能も持ち、センサから得られる走行状況をリアルタイムでホストコンピュータに転送できます。▶電気学科 矢野研究室 矢野良和准教授

体差の大きい製品をコンピュータで制御することで、高品位な製品へと昇華させる技術の開発を目的としたのが「ぼっち1号 mkII」**l**。自動運転技術への応用やセンサを用いた様々な製品の高応答制御を目指しています。

教育や人材育成を目的に

ロボット自体が活用されるわけではありませんが、学生や子供たち向けのプログラムにおけるロボット開発などは、人材育成を視野に入れて行っています。

ETロボコン**m**は同じプラットフォーム（LEGO Mindstorms EV3）を用いてソフトウェアの設計と開発を競うもので、将来の組み込みソフトウェア技術者の育成を行っています。

子供（小学4年～中学生）を対象にしたロボット教室で活用するために、自分で考えて動く「自律型のロボット」**n**を開発。赤外線センサ、カラーセンサ、タッチセンサなどを搭載しています。

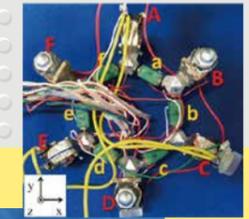
学生のものづくり技術の向上を目的に製作されたのが「自立走行一輪車」と「自立走行二輪車」**o**。企画・設計から製作・制御まですべて学生が行い、完成させました。

ソフトウェアの設計で競う ETロボコンの走行体

2輪による倒立振り子の走行体。各チームはモデルベース開発によりソフトウェアの設計を競います。▶情報科学科 情報基盤システム研究室 水野勝准教授（G3R）



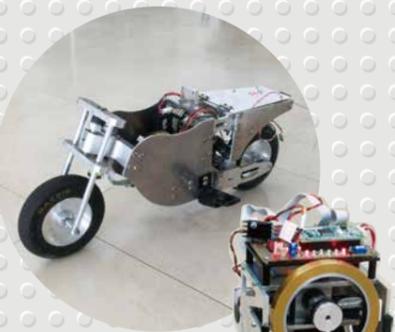
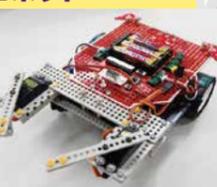
案内はお任せ
ツアーガイドロボット
倒立振り子二輪移動機構を採用。各務原市のかみかがはら航空宇宙科学博物館におけるイベントでの活用や本学ロボットミュージアム内での活用を検討中。▶機械学科 知能機械システム工学研究室 奥川雅之准教授



多方向に移動できる
多自由度
インチワーム
インチワームの原理を用い、微小動作の繰り返しで高さ方向以外にはどんな方向にも移動可能。▶電気学科 / パワーエレクトロニクス研究室 鳥井昭宏教授

子供たちが作る 学習用自律型ロボット

センサを使って、レスキュー競技に必要なラインレースや障害物回避など、様々な行動を可能にしています。▶電気学科 工学教育ロボット研究室 中野寛之准教授（H10E）



学生の技術が結集 自立走行一輪車 & 自立走行二輪車

静止時、走行時を問わず自立し、無線を用いて自由に走行が可能です。▶機械学科 創造的なものづくり研究室 渡辺修教授（45M）



©光プロ

車好きが高じて、自動車業界へ ポジティブシンキングで仕事に邁進

松本 洋さん(60M)
株式会社豊田自動織機 常務役員
エンジン事業部 碧南工場長

自動車部からモータースポーツの世界へ

高校生の頃から車が好きで、高校卒業後は修理工として工場に出入りしていた松本さん。そんな生活がしばらく続き、愛工大を受験。入学式の日自動車部に入部します。当時、日本自動車連盟(JAF)に加盟する団体の一つで、学生自動車連盟の全国大会でも強豪の自動車部でした。「競技用の車は解体工場から安く譲り受け、エンジンや足回りを自分たちで修理し、工場を手伝う代わりに足りない部品を買い受けたりしました」。

1983年、鈴鹿サーキットから鈴鹿8時間耐久レースへの審判員応援要請があり、自動車部から松本さんを含む3人が派遣されました。「ピット前で様々なデータを記録したり競技車両を検査する係でしたが、これがきっかけでその後の各種レースの審判を手伝いに行くようになり、モータースポーツの仲間が増えました」。

ディーゼルエンジンを開発する仕事に

自動車に関わる仕事がしたいと第一志望に選んだのは某自動車メーカーでしたが、進路指導の先生や諸先輩方々のアドバイスにより、グループ会社の一つである豊田自動織機の受験を決めます。「トヨタのルーツだとわかり、とても興味を持ちました」。

入社半年後の配属は、発足したばかりのエンジン事業部。「CAEが設計に取り入れられる草創期で、卒論で真面目に!! 研究した成果も活かせる…

と考えました」。どんな環境でも前向きに取り組むのが真情と語ります。

その後、水素エンジン開発、ディーゼルエンジン開発担当

を経て入社7年目で本社機構である事業推進部に異動。自動車関連の周辺事業を調査・探索しながら自動車用品アフターマーケットの企画開発から販売までを経験。「社内では経験者がいなかったため、問題が発生しても自分で調べるしかなく試行錯誤の連続。事業としての成果は出せませんでした。お客様指向や既存概念を変革する重要さを勉強しました」。

再び、エンジン事業部へ戻った松本さんは、2004年からトヨタ初となるV8ディーゼルエンジンの開発を担当。「トヨタ自動車さんの社員と一緒に開発していましたが、要求が高くて達成するのが困難と思われる状況も多々ありました」。そんな中、松本さんは持ち前のバイタリティと前向きな気概で開発を進めます。最初は設計グループ長として携わり、最後は100人に及ぶエンジン開発チームをまとめる立場として、他部署との調整に奔走します。

様々な経験が今に生きる

現在、エンジン事業部を率いる松本さんは、「会社は自分ひとりの力ではなく、チームワークが重要です。チームの士気を高めるためにはコミュニケーションが大切で、どれだけ本音で理解できるかがチームの力を引き出すポイントの一つですね」と語ります。メンバーの力を信じるのが大切だと考え、あえて自分に対抗するような意見の出せる人をチームに入れるようにしているとか。

仕事で忙しい日々を送る松本さんですが、学生時代から引き続きモータースポーツにも関わっています。入社後は、JAF公認のクラブに所属。「モータースポーツから得たものは早く適度な判断力の醸成であり、その魅力は1番を目指すこだわりにあります」。

2010年からF1日本グランプリの競技長を務め、今年からJAFモータースポーツ専門部会でレース部会長としての役を担っています。モータースポーツの魅力を知り尽くした松本さん。「自動車に熱い思いを持つ人が、もっと増えることを願っています」。

開発の思い出が深いV8ディーゼルエンジン 1999年からエンジン事業部が入っている社屋



地域に愛されるコンビニを目指し 経営手腕を発揮する

竹内 修一さん(60C)
株式会社ファミリーマート 取締役 専務執行役員 統合本部長
(元、株式会社サークルKサンクス 代表取締役社長)

学生時代の経験が社会でも生かされて

学生時代は大学祭実行委員会のメンバーとして仲間とともに運営に携っていた竹内さん。企画立案、パンフレットに掲載する広告スポンサーへの営業、学外から招くゲストへの出演交渉など、準備に奔走。「ゼロから作る部分が多く大変でしたが、企業活動に通じる部分も多々あり、今から思えばいい経験でした」。

卒業後はカーボン扱うメーカーへ就職。任されたのは活性炭を使った研究開発です。会社の規模が小さかったこともあり、製品の開発から生産計画、商品化、さらには技術営業まで一連の役割を担ったと言います。「やりがいもあり面白かったのですが、7年が過ぎた頃に違う業種も経験したくなり、思い切って転職しました」。

未経験の分野でやりがいを見つける

求人誌を見て、今までとは違う食を主にした小売の世界にひかれサークルKへ。「研修で店舗に立ったときに、最初のお客様には「いらっしゃいませ」が言えなかったですね」と話す竹内さんですが、コンビニのシステムには非常に興味を持ったそうです。「どんなときに何が売れるかなど過去のデータをもとに数値化し、商品発注をするというシステムで、まさしく理系の分野だと思いました」。2年間の店舗研修を経て本部へ戻り、スーパーバイザーとして発注から売場の作り方、経費の節減に至るまで4年間にわたってフランチャイズ加盟店の経営指導を行ってきました。

その後、システム部長に抜擢され、新たなシステムの構築に力を注ぎます。「アルバイトでも理解しやすいような情報の出し方はどうすればいいか、蓄積されたデータはどのように経営に生かせばいいかなど総合的に考え、システムを構築する必要があります」。2004年の9月には別会社だったサークルKとサンクスが統合され、株式会社サークルKサンクスになりました。このときにサークルKの店舗運営企画部門の責任者として、統合に尽力した竹内さん。「企業風土を統合するのは大変です。それぞれに主義主張もありますから、長い時間をかけて融和の方向へ持っていきました」。



稲沢天池北店



研修も行われる店舗

経営に携わり、次の一歩へ

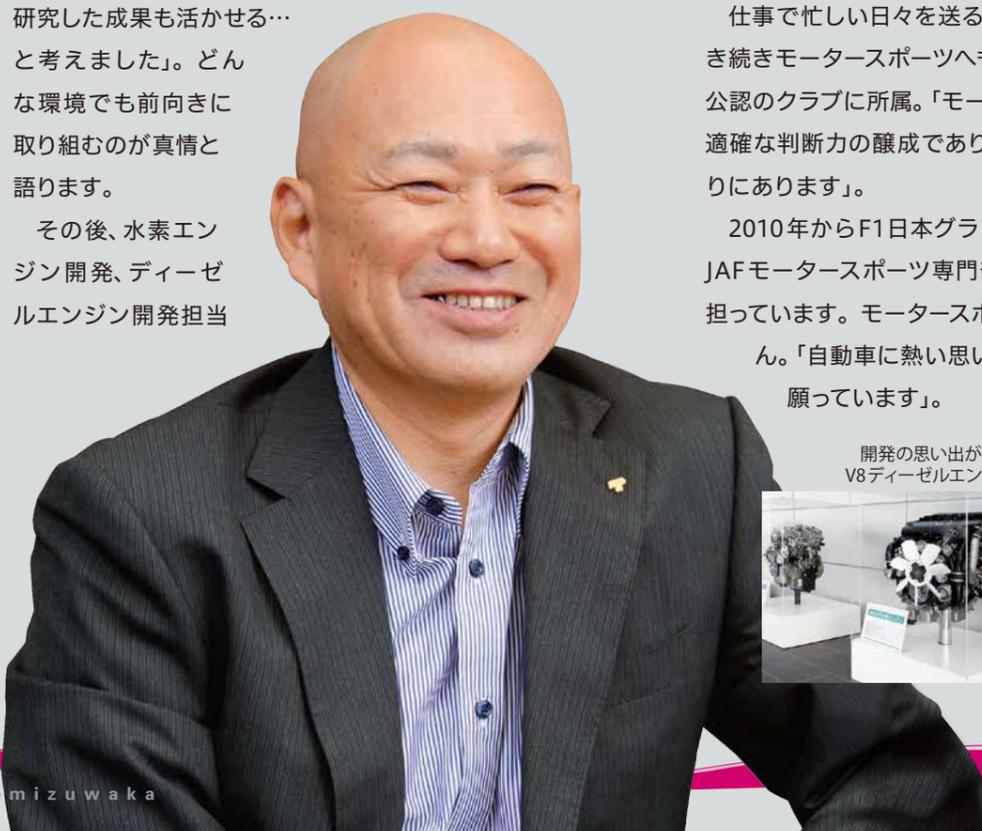
2013年3月に社長に就任。他のコンビニとの差別化をはかり、売上高をのばすために、経費削減や商品開発など様々な取り組みをしてきました。「かつてはお客様の8割を占める男性をターゲットにした商品開発・品揃えをしていました。最近では、お客様のニーズが複雑で、年齢層も幅広く、女性が多いなど状況は変化しています。常にアンテナを高くして情報を得て、さらに蓄積されたデータを活用しながら対応しています。既存のシステムや商品だけでは生き残りません」。

厳しい競争を勝ち抜くために、今年9月にはファミリーマートと経営統合し、ブランドを統一。国内店舗数も約1万8千店と、業界首位にせまる規模になりました。「人生で2度も経営統合の場に立ち会うとは…」と話す竹内さん。「ブランドがなくなるのは寂しいですが、それを越える新しいコンビニを作る必要があると考えてやってきました。加盟店から前より良くなったと言ってもらえなければ成功とは言えないですね」。今回の統合では前回とは異なり、スピード感を持って対応してきたと言います。

「将来的には生活のインフラになるコンビニを目指し、美味しい商品が揃い、3食買いたいと思っていただけるようにしていきたい」と竹内さんは言います。

コンビニはすべてのノウハウが詰まっている業界。様々な業種から人材が集まっています。「コンビニで仕事をしたら他業種でもやっていけると思

ます。生活を豊かにするための技術や研究開発の基礎を大学で学んでほしい」と後輩たちへメッセージを送ります。



グローバル社会で活躍する 人材育成を目指して



①2016年度 東南大学訪問学生代表团
②2016年度 国際交流イベント白川郷ツアー
③2014年度 アメリカ語学研修

愛工大では、グローバル社会で求められる人材を育成するために、様々な国際交流プログラムを用意しています。学術交流や学生の相互交流だけでなく、学生が異文化に接する機会を増やすため、海外の大学と提携して留学や研修プログラムの提供をしています。

また、海外からの留学生のサポートもしています。その一つに、在学生と留学生の交流を目的としたツアーの開催や留学生を手助けする学生ボランティアの募集などを行っています。

後藤鉦二初代学長が中国を訪問し、周恩来首相と会談した「ピンポン外交」以来、中国とは深い関わりを持ち、

東南大学(中国南京市)とは姉妹校提携を結んでいます。年1回の訪中団の派遣や中国語修得を目指す学生の派遣、日本文化研究のための留学生受け入れなど、活発な交流が行われています。

語学習得を目的とした短期留学は、中国以外にもアメリカやニュージーランドなどを対象に、大学行事の一環として希望者を募り、毎年20名ほどが参加しています。カタロニア工科大学(スペイン)、揚州大学(中国)、コンキャン大学(タイ)、韓国海洋大学校(韓国)とは協定を結び、交換留学制度を設け、長期留学をサポートしています。



大澤 光貴さん
機械学科
機械工学専攻 4年



スペインの カタロニア工科大学へ留学 ～バルセロナで学んだこと～

愛工大初の交換留学生という事もあり、手続きや制度面で様々な問題が発生し、心配なこともありましたが、周囲の皆様の厚い手助けもあり無事留学できました。最初は戸惑いもありましたが、向こうの生活を受け入れ自ら進んで体験するようにしました。

平均年収や生活水準など、日本より深刻な問題を抱えている面もありますが、どんな時でも自分の人生を楽しむために努力を惜しまない姿勢から、「人生を楽

しむ」という事を学びました。それは、明治時代にヨーロッパをお手本に先進国となった日本が、今もう一度ヨーロッパから学ぶべきものの一つではないでしょうか。就職後も彼らから学んだことを決して忘れず、苦しく大変でも彩のある人生を歩んでいこうと思います。



AIT OPEN FORUM

2016年度AITオープンフォーラム開催

第114回

2016年9月17日(土)
会場:四日市都ホテル
テーマ:医療に役立つ呼吸分析
講師:工学部応用化学科
手嶋 紀雄 教授

第115回

2016年11月12日(土)
会場:ホテルクラウンパレス浜松
テーマ:ロケット技術の現状と未来
講師:工学部機械学科
今野 彰 教授

第116回

2016年11月19日(土)
会場:岐阜グランドホテル
テーマ:眼が私たちに教えてくれること～自閉症診断から絵画手法まで～
講師:情報科学部情報科学科
鳥居 一平 教授

Pick up ロケット技術の現状と未来 講師:今野 彰 教授



「日本で初めてロケットが飛んだのは今から61年前で、東京大学生産技術研究所の糸川先生が“ペンシルロケット”と呼ばれる小さなロケットを水平に飛ばしたのが日本でのロケット開発の始まりでした。今や日本最大のロケットH-IIBで低軌道に20tの荷物を打ち上げることができるようになりました。このH-IIB技術の基になっているのがH-IIAロケットで、これまで30機打ち上げて1機(6号機)

を除き全て成功し、打上成功率96%以上の高い信頼性を誇っています。この様に信頼性の高い技術を確立するまでにはロケット開発に多くの困難があり、失敗を克服して改良を続けたエピソードを交え、ロケット技術の現状と次世代ロケット(H3)について紹介させていただきます」との提言により、大変興味深い講演がなされました。

ロケット研究会



以前はH-IIAロケットなどの開発に携わっていた今野教授

機械学科の学生中心に2年前に結成され、昨年は公式クラブとして活動しています。部員は電気学科や応用化学科の学生も含め

15名ほどで、顧問は機械学科の今野彰教授が務めています。

研究会の目標は「種子島ロケットコンテスト」への参加。前回は初参加で



第12回コンテストで準備する榎村さん(上)と表彰式(下)



ロケット部門の試作機第1号



ロケットを制御するためのプログラミング作業をする渡辺さん



三木さんと永田さんは細かい部分について打ち合わせ



左から渡辺さん、永田さん、三木さん

部長の榎村太紀さん(機械学科機械創造工学専攻3年)がみごとに「安全賞」を受賞しました。

2017年3月2日と3日に行われる第13回のコンテストには、三木一慶さん(機械学科機械工学専攻1年)と永田真也さん(機械学科機械創造工学専攻1年)がロケット部門の高度を競う種目に参加します。「空気抵抗を減らすため、機体の直径や重さを工

夫しています」と主にデザインと設計を担う三木さん。「先端部分はヤスリで微調整しながら削ります」と製作を任されている永田さん。

また、榎村さんとともにCanSat部門に参加する渡辺啓太さん(電気学科電子情報工学専攻3年)は、「プログラミングが重要ですね」と語り、準備を進めています。

※種子島ロケットコンテスト
<http://jaxa-rocket-contest.jp/>



吉村真晴さんが銀メダル (H28HH)



卓球部OBの吉村さんガリオ五輪・卓球男子団体が銀メダルを獲得し、母校である愛工大を訪問。後輩たちを前に報告と次のオリンピックへの思いを語りました。

クラブ一覧

【体育系団体】

卓球部	(顧問) 近藤 高司	(所属) 経営学科
硬式野球部	服部 洋兒	経営学科
フエンシング部	石井 成美	経営学科
陸上競技部	老平 崇了	経営学科
競技スキー部	後藤 時政	経営学科
ラグビー部	岡本 昌也	経営学科
硬式テニス部	藤井 勝紀	経営学科
ゴルフ部	呉 承寧	土木工学科
バスケットボール部	鳥井 昭宏	電気学科
洋弓部	柳井 裕道	基礎教育センター
サッカー部	小原 史朗	基礎教育センター
バドミントン部	神谷 恵輔	機械学科
ソフトテニス部	藤井 勝紀	経営学科
バレーボール部	老平 崇了	経営学科
準硬式野球部	瀬古 繁喜	建築学科
ボウリング部	村中正	基礎教育センター
基礎スキー部	鈴木 森晶	土木工学科
ヨット部	建部 謙治	建築学科
フィッシング部	松河 剛司	情報科学科
レーシングカート部	山田 章	機械学科
自動車部	岩月 栄治	土木工学科
航空部	中山 雄行	機械学科

ライフル射撃部	小林 雄一	応用化学科
柔道部	服部 洋兒	経営学科
剣道部	加藤 久佳	基礎教育センター
弓道部	村瀬 洋	電気学科
空手道部	後藤 時政	経営学科
二輪同好会	谷本 隆一	機械学科
自転車同好会	武田 巨平	機械学科
スノーボード同好会	矢野 良和	電気学科
フットサル同好会	高木 淳	基礎教育センター
チア同好会	藤井 勝紀	経営学科
卓球同好会	張 新力	基礎教育センター
ソフトボール同好会	立木 次郎	応用化学科

【文化系団体】

管弦楽団	隅山 孝夫	基礎教育センター
ギター部	小塚 晃透	電気学科
軽音楽部	津田 紀生	電気学科
フリーサウンドサークル	尾之内 千夫	応用化学科
写真研究部	伊藤 雅	情報科学科
囲碁・将棋部	渡辺 修	機械学科
鉄道研究部	小池 則満	土木工学科
美術部	杉野 丞	建築学科
DTM部	菱田 隆彰	情報科学科
漫画動画研究会	一刀 祐一	基礎教育センター

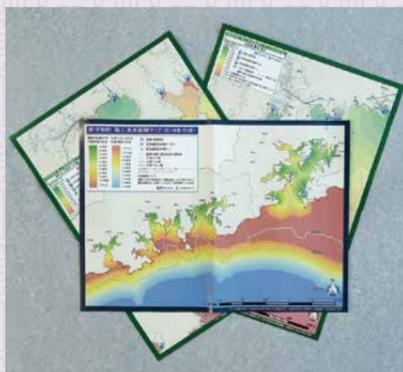
システム工学研究会	伊藤 暢浩	情報科学科
総合工学研究会	谷本 隆一	機械学科
建築研究会	松本 壮一郎	建築学科
現代視覚文化研究会	鈴木 晋	情報科学科
土木研究会	鈴木 森晶	土木工学科
サブカルチャー研究会	小林 雄一	応用化学科
メディア情報研究会	鳥居 一平	情報科学科
レスキューロボット研究会	奥川 雅之	機械学科
AIT学生フォーミュラ研究会	藤村 俊夫	機械学科
AITEP	雪田 和人	電気学科
Robot-Art	道木 加絵	電気学科
R & M	渡辺 修	機械学科
人力飛行機同好会	三宅 慶明	機械学科
生物同好会	西村 聡子	応用化学科
創作サークル	松河 剛司	情報科学科
旅サークル	松井 良介	機械学科
みらい工房創りクラブ	森 豪	基礎教育センター
ジャグリングサークル	柳井 裕道	基礎教育センター
映像制作サークル	北坂 孝幸	情報科学科
アナログゲーム同好会	糸井 弘行	応用化学科
就職活動支援サークル	加藤 里美	経営学科
星を見る会	野村 重信	経営学科
ロケット研究会	今野 彰	機械学科

全国初の海上避難マップ作製など 津波から人々を守る防災に力を注ぐ

工学部 土木工学科 小池 則満 教授

ルの沖に避難した方が早い海域、両方が可能な海域が瞬時にわかり、速やかな避難につながると考えています。

調査結果を各漁業者に提示し、数10回に及び議論を重ねていきました。「様々な漁の種類があり、それぞれに携わる漁業者も違うため、意見も千差万別でした」。意見をすり合わせながら、なるべく多くの人に活用してもらえるようなマップを作製し、完成したマップは、漁業協同組合の組合員に配布されました。



配布したマップは、船に常備しておけるよう、水にぬれても大丈夫な紙を使用

一般の人を対象にした マップの作製

次のステップとしては、一般客を乗せることができる遊漁業者に対応できるマップ作りをすすめています。南伊勢町は里海観光が盛んで、漁業体験にも力を入れています。愛工大の学生と岐阜聖徳学園大学、愛知県立大学の学生や教員も合わせて約30人が調査に参加し、実際の観光スポットや体験メニューに合わせた場所で調査をし、マップに反映します。「過度に不安をおおるのではなく、安心安全に気を配った上で、海で遊んでほしいと思います」。マップは、地域の防災学習にも役立ててもらえた

らと考えているそうです。

土地勘のない地域で災害に遭遇することも少なくありません。そうした人々の被害軽減のためにも、観光防災に力を入れたいと語る小池先生。「不安をおおって観光客が減ることに懸念を示す向きもあり、我々研究者や観光協会など受け入れ側の両方がジレンマを抱えています。手つかずの部分でニーズは高いと思っています」。

様々な形で 防災教育に取り組む

地域防災研究センターの活動にも関わり、小学校での防災マップ作りへの協力もしています。東日本大震災以降、学校防災の重要性が再認識され、依頼が増えているそうです。他にも中学校で開催する防災キャンプでは、アンケートのデータ集計や現場での補助など、学生が協力をしています。

「防災は現場が研究室です。地域でのコミュニケーションの取り方や住民の声をどう汲み取るかなど、防災に欠かせないノウハウの中には現場でしか体験できないことが多々あります。経験は、卒業後に行政の担当者となった場合や、土木関係の技術者となった場合にも活かってくるはず」。

調査について学生たちと話す小池教授



漁業者を守る 海上避難マップ作り

南伊勢町の「海上避難マップ」を作製した小池教授。漁業者と町からの依頼を受けて、今年の3月に完成させました。

「徳島県などでも避難マップは作製されていますが、船を沖に避難させること（沖出し）を前提としたものです。それに対して、南伊勢町のマップは、港に戻る場合と沖に出る場合の両方を想定して作製しています」。このようなマップは全国初です。

水産庁のガイドラインには、港に戻るか沖に避難するかは明確な基準がなく、各漁業者の判断に任されています。「このあたりの海岸線はリアス式で水深も浅く、小型船が多い。海の地形や船の大きさ、操業エリアなども徳島とは異なります。それぞれの地域の実情に即した避難マップが必要だと考えています」。

2014年夏の避難訓練でマップ作製に必要な情報を得るため、状況調査を開始。「学生を調査員として乗船させ、海上で携帯電波と防災行政無線の受信状態を確認しました。また、GPSで位置情報も同時に記録しました」。

完成したマップは、海域が色分けされており、各漁業者が自分の位置をもとに避難先を判断できるようになっています。「地震発生から津波到達までの時間を約10分と想定し、港に戻り高台へ避難が可能な海域と水深100メートル

最近話題のフードロスについて研究し 地域共創を掲げて活動を進める

経営学部 経営学科 小林 富雄 准教授

学生時代から フードロスについて研究

マーケティングを専門とする小林先生。「マーケティングは売りたい人と買いたい人をつなぐ、マッチングを扱う学問です。手法は様々で、自動車と食品など扱うものによっても異なります」。小林先生が力を入れているのは食品のマーケティング。サプライチェーンの分析を通して、フードロスの問題を研究しています。「学生時代から始めた研究ですが、最近になって何かと研究成果を取り上げていただく機会が増えました」。

需要と供給のマッチングがうまくいかないとフードロスにつながります。モノが足りない状態では比較的うまくマーケットは機能しますが、モノがあふれた状態ではマーケットを通して慎重にマッチングを考える必要があります。そこで適切なマーケティングができれば、フードロスの軽減につながります。

「ある商品が売れない場合、本来は供給量を減らす必要がありますが、売上高を維持するには単価を上げ品質で勝負することも重要になります。ところが、企業によっては、供給量を増やしてコストを下げ売上高を確保するという薄利多売の手法をとるケースが多々あります。結果的に品質の良くないものが出回ってモノを大切にしない社会ができ上がってしまいます」と小林先生。その状況が顕著に出るのが食品の世界だとか。「値下げ効果が短期的に売り上げに出やすい市場であり、これをマーケティングの手法で何とかしたいと思っています」。

フードロスを減らすために

ほかにもフードロスにつながる要因があります。「セルフ販売は効率的な面

もありますが、空の棚があると客足が遠のくため過剰に商品を供給し、売れ残りは期限切れを前に返品され、フードロスを招くことになります。対面販売の場合は消費者に直接事情を伝えることができるため、過剰に商品を置く必要もなく、期限切れ間近の商品は割引販売するなどロスを減らせます」。

消費者を大切にすあまり、賞味期限などに敏感になり過ぎて、多くのフードロスを出してしまうという問題は、食品偽装問題と無関係ではありません。自ら進んでロスを出したい企業などありませんから、売れるモノは事情を隠して横流し販売するなど偽装につながりかねないからです。こうした問題を解決するには、消費者参加型のマーケティングを広げることだと言います。「作り手、売り手、買い手がマーケットに参加することが大切です。作り手と売り手は正しい情報を提供し、買い手の判断に任せることも必要です。お客様を大事にするのはいいことですが、お客様は神様ではないですから…」。

小林先生が顧問を務めるドギーバッグ普及委員会のツール



食品ロスを減らす一つの方法にドギーバッグがあります。「日本では衛生面や何か起きたときの責任の所在などの観点から持ち帰り禁止が多いですが、アメリカなどでは店から持ち帰りをすすめるケースも少なくないですね。香港ではホ

※フードロス（食品ロス）：食べられる状態の食品が失われること
※サプライチェーン：原材料から消費者の手に届く商品に至るまでのプロセスのつながり

テルのビュッフェで余った料理を貧困者に配る事業もあるぐらいです」。ドギーバッグ普及のためには、消費者自身も責任を持つことが不可欠だと言います。



学生が中心になって行う自由ヶ丘キャンパスでのイベント

地域とともに プロジェクトに取り組む

学生チャレンジプロジェクトの一環で「フードロス対策の可視化を通じたものづくり支援と地域活性化」をテーマに学生とともに活動をしています。

「3Rの原則を掲げて進めており、Reduceは食べ残しをしない注文をするよう学生が啓蒙活動を行っています。Reuseはドギーバッグの設置推進で、地域の店へ協賛のお願いをするドギーバッグ普及委員会の活動です。Recycleでは、他の研究室が主になり、食べ残しを堆肥にして花壇づくりを進めています」。

学生には「外へ出ていくこと」を強くすすめているという小林先生。自由ヶ丘地域でドギーバッグの普及が進み、やがて市全域に広がることを期待していると語ります。

同窓生入試で愛工大へ!

開学50周年記念事業の一環で始まった同窓生入試は、同窓生のご息のために設けられた制度です。小論文と面接による選考が行われます。入学金の優遇制度もありますので、ぜひ、ご利用ください。詳しくは入試広報課へお問い合わせください。

■スケジュール [2016年度]

小論文・面接(口頭試問を含む)
工学部・経営学部・情報科学部…10/29(土)
※検定料35,000円

合格発表
11/4(金)

入学手続
入学金…12/13(火)
指定書類・学納金等
……………1/11(水)

電気工学専攻	〇	機械創造工学専攻	〇	経営情報システム専攻	〇
電子情報工学専攻	〇	土木工学専攻	〇	スポーツマネジメント専攻	〇
応用化学専攻	〇	防災土木工学専攻	〇	コンピュータシステム専攻	〇
バイオ環境化学専攻	〇	建築学専攻	〇	メディア情報専攻	〇
機械工学専攻	〇	住居デザイン専攻	〇	合 計	11名 8名

多彩な入試制度を用意しています!

★早めの合格を目指すなら ▶ 推薦入試 (スポーツ推薦) (女子学生推薦) (一般推薦) 出願は10月からスタート!

★今からでも間に合う ▶ 一般入試 (下記日程) 1月以降の出願で受験できます。

■今からでも間に合う入試日程 ※出願に関して、前期日程A方式、前期日程M方式、後期日程M方式、センター3期はメチ日必着(持ち込み可)で、これ以外入試はメチ日消印有効です。

入試区分	入試の名称	出願期間	試験日	実施学部	試験会場	合格発表日
前期日程	一般入試	前期日程 A方式(記述式)	1/27(金)	全学部	本学(八草キャンパス・自由ヶ丘キャンパス)、一宮、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山	2/10(金)
		前期日程 M方式(マークセンス式)	1/28(土)		本学(八草キャンパス・自由ヶ丘キャンパス)、一宮、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、岡山、松本、福岡	
	センター試験利用入試	センター1期C方式(3教科利用)	1/6(金)~19(木)※		1/29(日)	
後期日程	一般入試	後期日程 M方式(マークセンス式)	3/3(金)	全学部	本学(八草キャンパス)、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松	3/9(木)
	センター試験利用入試	センター2期C方式(2教科利用)	2/2(木)~23(木)※		本学が課す試験はありません。	
	センター試験利用入試	センター3期C方式(3教科利用)	2/24(金)~3/3(金)※			

[入試に関するアレコレ、ここでチェック! ▶▶▶ <http://www.ait.ac.jp/nyushi/>]

2016オープンキャンパス開催!



2016年7月23日(土)・24日(日)に八草キャンパス・自由ヶ丘キャンパス(経営情報システム専攻のみ)でオープンキャンパスが開催され、3797名の方が訪れました。

「個別相談コーナー」「理工系ガール専用ブース」などでは、個別に相談をする来場者の姿が見られました。特設ステージでは、女子学生をモデルとした学科説明や女子学生によるパネルディスカッションなどが行われ、女子高校生の関心を集めていました。

専攻デモンストレーションでは、各専攻の学生や大学院生による説明や実験などが行われ、実際の授業や研究について来場者が具体的

なイメージを持つのに一役買っていました。人力飛行機の展示、ロボットによるデモンストレーション、フォーミュラカーの実演、モデルロケットの打ち上げなど、工業大学ならではの見どころもたくさん。高校生や保護者の方々も直接、現役の学生に質問できる機会とあって、多くの方で賑わいました。

また、新たに完成した新2号館や、セントラルテラスなどの施設を見学する来場者も多く見られました。

10月8日(土)にも八草キャンパスでは、愛工大祭と同時秋のオープンキャンパスが開催されました。

入試に関するお問い合わせ | 愛知工業大学・入試センター TEL 0120-188-651 (入試広報課) FAX 0565-48-0024 e-mail nyushi@aitech.ac.jp



加藤 優太さん (H27MM)
工学研究科博士前期課程機械工学専攻2年

キャリアセンター
を利用して

馬場 ななみさん
情報科学科コンピュータシステム専攻4年



就職活動を始めるにあたって、自分で作成した履歴書や自己PRを持ってキャリアセンターへ添削のお願いに行きました。学部在籍時にラグビー部で選手と主務をしていたことや大学院での研究など、書くことが多くなってしまい迷う部分があったのですが、親身になって相談のしてもらえました。自己PRも「なぜそれがいいのか、理由を入れた方がいい」など具体的なアドバイスにより、しっかりアピールできるものにできたと思います。企業個別説明会への参加でも背中を押してもらえたので心強かったです。専門家ならではの指導は頼りになりました。その甲斐もあり、希望の航空宇宙関係の企業に内定が決まりました。

最初に履歴書を書く講座に参加し、それから何度も書き直してキャリアセンターの方に見てもらったのですが、そのたびにダメ出しをもらい途中で心が折れそうになったことも…。でも、センターの方は、根気強く相談に乗ってくださり、ときには2時間以上になることもありましたが、いろいろな話をしていく中で自分を客観的に見ることができるようになり、アピールするべき点もわかりました。他にもセンター主催の模擬面接やグループディスカッションに参加しました。そのおかげで、実際の企業面接でも、緊張することなく自信を持って話ができ、ディスカッションにも積極的に取り組むことができたと思います。



北原 大輝さん
電気学科電子情報工学専攻4年

インターンシップ
に参加して

舟橋 安由子さん
応用化学科バイオ環境化学専攻4年



1年生の頃からインターンシップ制度は知っていましたが、3年生になり学内メールで募集があったので参加しました。趣味でカメラや音楽をやっていたこともあり、マスコミ関係に興味があったので、テレビ番組などの制作をする会社に行きました。取材現場にも同行してもらい、毎回、違うスタッフや相手先と仕事をする難しさなども体験できましたし、とくに目上の方との接し方は勉強になりました。インターンシップ先の社員の方からは「いろいろな価値観を持って様々な業種を見た方がいい」という助言もあり、最終的に大学で学んだ専門分野を生かせるような業種を目指そうという決意ができました。

環境系の企業に興味があり、自分の学んだ知識や技術が生かされると思い、川の水や排水、土壌などを分析する企業へインターンシップに行きました。1時間半かけて通い、1日8時間働くという体験がはじめてだったので、最初の1週間はヘトヘトでした。社会で働く大変さを身を持って知りました。その後、先輩の紹介で1日だけ別の会社にも体験に行きました。そこで研究開発をしている方の話を聞き、自分の興味のある分野だとわかったことも収穫でした。社内の雰囲気や社員の方の仕事ぶりを見ることができたのも良かったです。結果的には、2つ目の企業に応募し、無事に内定をいただくことができました。

同窓生が所属している企業を主とした企業展、「瑞若会企業展」にご参加ください

瑞若会(愛知工業大学同窓会)では、例年、在学生への就職支援の一環として学内企業展を開催して参りました。2015年(平成27年)度からは、キャリア教育の一助として全学年対象のイベントとして開催しております。2016年(平成28年)度は、5月21日(土)に開催し、同窓生が所属している企業を中心に70社と、228名の学生の参加がありました。参加した学生にとっては社会人として活躍している多くの同窓生と接することができ、就職だけでなく、自身の将来を考える大変有意義な機会となりました。



瑞若会企業展の様子

【2017年度開催のお知らせ】

2017年度も5月頃に「瑞若会企業展2017」を開催する予定です。参加希望の企業様は、2017年2月末までに、E-mailまたはFAXにてキャリアセンターへご連絡ください。キャリアセンターより詳細のご案内をさせていただきます。※応募多数の場合は、ご参加いただけない場合もございますので予めご了承ください。

インターンシップ制度について

キャリアセンターでは、各専攻の担当教員と連携をし、就職指導・支援を行っています。インターンシップ制度を活用した職場体験もすすめておりますので、学生受け入れにご協力いただける企業様は、キャリアセンターまでご連絡ください。

求人のご依頼について

求人に関しては、下記から一括で求人票の登録ができますので、ぜひ、ご利用ください。

WEB求人登録システム

URL <http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/>

卒業生向けの求人検索サービスのご案内

卒業生の方々が、「既卒者可」の求人が検索できるサービスを実施しています。下記のアドレスから登録していただき、ご利用ください。

既卒者求人検索

URL <http://www.ait.ac.jp/career/center/>

就職に関するお問い合わせ | 愛知工業大学・キャリアセンター TEL 0565-48-4655 (直) FAX 0565-48-6140 e-mail syusyoku@aitech.ac.jp

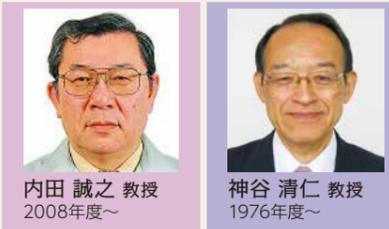
2016年3月に退職された教員



一柳 勝宏 教授
1970年度～



井 研治 教授
1995年度～



内田 誠之 教授
2008年度～



神谷 清仁 教授
1976年度～



小林 正 教授
2009年度～
2016年度～特任教授



成田 国朝 教授
1973年度～



早川 芳宏 教授
2009年度～



正木 和明 教授
1974年度～
2016年度～客員教授



水谷 充 准教授
1981年度～



水野 忠則 教授
2011年度～
2016年度～客員教授



森 昌弘 教授
2010年度～
2016年度～客員教授



山田 岳志 教授
1969年度～

退職教員に聞きました！(敬称略)

教員として印象深い出来事は？

◆大学院卒業後、助手として採用され、回路理論演習を担当し、若水校舎から八草校舎までスクールバスで1時間かけて移動したことが懐かしいです。学会、研究会の会場やエコ電の展示会ブースなどで研究室の卒業生に会うことも多く、社会で活躍されている姿を拝見し、自分のことのように嬉しく思います。(一柳)

◆2部や夜間主コース、E専攻も含めて合計241名の卒業生が音響や通信の研究にきてくれました。修士課程も9名いました。着任当時は、インターネット黎明期でしたが、辛口の通信理論や信号理論の授業にも、学生諸君は大変よく勉強していた印象が残っています。(井)

◆「建築環境工学」「建築設備」「建築設備設計」などを担当し、多くの卒業生を建築設備関係の企業に送り出しました。「愛工大は建築設備に強い」と言われるように卒業生が頑張ってくれていて、当初の教育目標達成に協力することができました。新2号館の建設現場で、空調設備と給排水設備の現場担当者として研究室の卒業生が働いてくれたことは嬉しいことでした。(神谷)

◆「使いにくいモノを作らないための原理・原則を身に付けた人材を育て、世の中に多数ある使いにくいモノを少なくしていきたい!」という高邁?な目標を実現すべく講義に臨みました。7年間という短い期間でしたが、私の教えを理解してくれた卒業生たちが、ものづくりの中心的役割を果たせるようになるまで気長に待つことにします。(小林)

◆退職前の約10年間に教学センター長と工学部長を各4年間務め、事務職員と協働しながら大学運営に携わったことが印象に残ります。教学センター長の時は、15週授業の確保・シラバスの充実・再試験制度の廃止・プレースメントテストの導入・チュータ制の導入など、幾つかの全学的な制度改革を実現したのですが、これらは同時期に土木工学科で目指していたJABEE認定に向けての教育改善内容にピッタリ沿うものでした。お陰様で土木は2008年の初回審査で無事合格し、JABEE認証を取得しました。(成田)

◆一番印象深いのは、メキシコで過ごした2年間です。1回目は大学からメキシコ大学に派遣され、2回目は国際協力事業団(JICA) 専門家として派遣されました。がんじがらめの日本とは対照的にいい加減で、それでいて温かいメキシコが大好きになりました。地域防災研究センター長として過ごした12年間は、自治体、企業、市民、院生・学生・生徒、本当に多くの方と知り合いになり、地域防災について真剣に考えた充実の期間でした。その間に起きた東日本大震災は強く心に残っています。特に若い人が、「真の幸福とは何か」「社会のために何をなすべきか」を考え行動を起こし始めるきっかけを作った災害だと思えます。(正木)

◆退職前10年ほど、学生とともに取り組んだ人力飛行機の記憶が鮮明です。特に高山郊外の飛騨エアパークに向かい、まだ薄明の夜明けとともに試験飛行を繰り返したことが思い出されます。風が強くて一回も飛行できずに帰って来たこともあれば、思わずうっとりするほどの見事な飛行をしたこともありました。間一髪、肝を冷やす思いをしたことも何度かありました。何かの縁でしょうか、この飛行場と同じ高山市に家を持つことになりました。(水谷)

◆短期間でしたが、4人の修士学生を育てることができました。大学院生を中心に、情報処理学会などで数多くの発表をし、何回か表彰されました。バリの国際会議では相手の先生から素晴らしい発表だと褒めいただき、アムステルダムの国際会議では優秀論文賞をいただき、「さすが愛工大生」と感激しました。企業との共同研究で豊田市を現実実験の対象にしたことから、市役所で豊田市長に研究成果(観光案内系、子育て支援系)を2年連続でプレゼンしたことも良い思い出です。毎年400人以上参加する情報処理学会DICOMOシンポジウムでは運営委員長を長年務めています。情報科学科の学生が最優秀デモンストレーション賞を連続受賞し、大変誇りに感じました。(水野)

◆卒研の合間に、ボーリング、お好み焼き、焼肉、屋上バーベキュー、そうめん流し、スイカ割りなど、卒研生が進めた研究室のいろんなイベントが多かったです。(井)

◆2012年度の鳥人間大会への出場が、最も強く印象に残っています。大学院生だった白坂君がパイロットとなり、AIT203号機で見事な飛進をし、引き続き約650mほどでしたが安定した飛行を実現しました。惜しくも折り返し点で高度が下がりが着水してしまったのは大変残念でしたが、経験も浅い中、非常に良くやったと思っています。またその時の基幹要員であった優秀な杉浦君が、就職後2年たったところで突然亡くなったことは大変残念でなりません。(内田)

◆基礎教育を担当していたので、学部に進学すると、ほとんどの学生と関係がきれてしまうのですが、中には研究室のゼミでわからない箇所を質問に来る学生や、卒業論文の発表練習に来る学生もいました。卒業時に研究室まで挨拶に来てくれたり、大学院に進学し修士論文の発表を目の前でしてくれることもあり、教員冥利に尽きる瞬間でした。(森)

◆思い出深いモノや場所は？

◆民間ヘリコプター用ガスタービンエンジンの実物です。これは、私が企業が籍中に自らが中心になって開発・実用化したもので、機械学科に寄贈してもらい、展示してあります。長く保存していただくと大変嬉しいです。(内田)

◆タイガー手回し計算機です。基本的には加算器で一般的には加減乗除を行います。ルート計算ができるのが私の自慢です。愛工大に来た年の廃棄物処理で見つけたものですが、懐かしくなって研究室に置いておきました。(神谷)

◆今や取り壊されて更地になった旧2号館は、在職43年間の思い出が詰まる住家でした。他棟と比べて研究室や廊下が幅広く、ユツタリとした空間を誇っていました。(成田)

◆時計台前のメーブル街道は紅葉が美しく、張った根で道路が盛り上がっていたのを見て生命力の素晴らしさを感じていました。(正木)

◆計算センター、情報教育センターです。学生時代も昼夜を問わずもっていましたし、ここで授業の大半を行った、いわば私の主戦場でした。(水谷)

◆テニスコートです。違う学科の先生にお会いすることもでき、良い思い出となっています。テニスセンサーでサービス、ストロークの早さを計測したのも記憶に残っています。(水野)

事業報告(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

本部の会議		各種行事	
1月	平成27年度第5回総務常任委員会(1/22)		
2月			
3月		■平成27年度 卒業式「瑞若賞」贈呈(3/23) 卒業生に記念品配布(3/23) ■ロボカップジャパンオープン2016愛知(3/25～27)	
4月	平成28年度第1回総務常任委員会開催(4/20)	■平成28年度入学式(4/2) ●「みずわか」編集委員会開催(4/26) ●清酒「瑞若」選定会(5/13:名古屋ガーデンパレス) ●瑞若会(同窓会)企業展(5/21) ■新会員のデータ入力(5/28) ■新会員の同窓会費入金処理(5/30)	
5月	平成28年度第2回総務常任委員会開催(5/18)	●「みずわか」編集委員会開催(6/1) ▲愛知県私立大学同窓会連合会平成28年度理事会・総会(6/29) ■瑞若会奨学金授与 ●清酒「三日月瑞若」販売開始(7/2) ▲愛知県私立大学同窓会連合会第6回会員大学見学会・情報交換会(7/9:中部大学) ◆職場支部近藤グループ愛工会(7/22)	
6月	平成28年度第3回総務常任委員会開催(6/23)		
7月	瑞若会理事会・支部長会議開催(7/2:名古屋国際ホテル)		
8月			
9月	平成28年度第4回総務常任委員会開催(9/14)	▲愛知県私立大学同窓会連合会第7回会員大学見学会・情報交換会(9/4:東邦大学) ◆北陸支部交流会(9/10:パレプラン高志会館) ▲三重AITオープンフォーラム(9/17:四日市都ホテル) ◆中・四国支部交流会(9/24:アークホテル岡山)	
10月		●ホームカミングデー(10/8・9) ■愛工大祭 開催への援助(10/8・9) ■工科展(10/8)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ◆関西支部・岐阜県支部合同見学会(10/15・16:高山市) ◆長野支部交流会(11/5:松本東急REIホテル) ◆三重県支部愛工大見学会(11/6) ■駅伝大会(11/8)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ▲静岡AITオープンフォーラム(11/12:ホテルクラウンパレス浜松) ▲岐阜AITオープンフォーラム(11/19:岐阜グランドホテル)	
11月		◆長野支部交流会(11/5:松本東急REIホテル) ◆三重県支部愛工大見学会(11/6) ■駅伝大会(11/8)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ▲静岡AITオープンフォーラム(11/12:ホテルクラウンパレス浜松) ▲岐阜AITオープンフォーラム(11/19:岐阜グランドホテル)	
12月	平成28年度第5回総務常任委員会開催(12/15)	●「みずわか vol.49」会員へ郵送	

凡例:●本部事業 ■学内事業 ◆支部事業 ▲その他

卒業学科		卒業年		氏名		卒業学科		卒業年		氏名		
電気工学科	1970	加藤	保彦	1984	佐藤	喜寿	1990	加藤	浩二	1990	田中	
電子工学科	1964	飯田	皓一	1980	荻井	保男	1965	田中	鉦吾	2008	河合	
		1964	上野	進一	1967	後藤	鎮郎	1973	石垣	光夫	1991	中山
		1964	稲垣	芳輝	1967	後藤	鎮郎	1973	石垣	光夫	1991	中山
		1965	杉本	頼信	1967	後藤	鎮郎	1973	石垣	光夫	1991	中山
		1971	野場	喜多雄	1973	石垣	光夫	1973	石垣	光夫	1991	中山
		1971	平川	誠	1973	石垣	光夫	1973	石垣	光夫	1991	中山
		1973	伊藤	敏夫	1970	磯村	俊樹	1977	内海	伊佐雄	1987	今井
		1975	山本	久雄	1970	磯村	俊樹	1977	内海	伊佐雄	1987	今井
		1978	中尾	保之	1977	内海	伊佐雄	1977	内海	伊佐雄	1987	今井
		1982	稲垣	藤夫	1987	今井	大作					
		1983	山本	真実也								

人事異動に関するお知らせ

人事異動(卒業生関係)	任命	学長補佐	杉野 丞	52A
工学部電気学科	教授	津田 紀生	H4R	
工学部電気学科	教授	一柳 勝宏	43E	
工学部電気学科	教授	井 研治		
工学部応用化学科	教授	早川 芳宏		
工学部機械学科	教授	内田 誠之		
工学部機械学科	准教授	水谷 充	54M	
工学部土木工学科	教授	成田 国朝		
工学部土木工学科	教授	正木 和明		
工学部建築学科	教授	神谷 清仁		
経営学部経営学科	准教授	竹中 嘉久	56K	
情報科学部情報科学科	教授	小林 正		
情報科学部情報科学科	教授	水野 忠則		
基礎教育センター自然科学教室	教授	森 昌弘		
基礎教育センター総合教育教室	教授	山田 岳志		
愛工大名電高等学校	教諭	玉置 博男	48M	
愛工大名電高等学校	教諭	佐野 輝道		
愛工大名電高等学校	教諭	織田 秀彦		
愛工大名電高等学校	教諭	坂倉 富行		

平成27年度 決算書(収支計算書)

経常経費(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差額	備考
入会金(基本金)	9,060,000	9,768,000	708,000	
終身会費	36,300,000	39,140,000	2,840,000	
年会費	0	625,000	625,000	総会参加費
受取利息	60,000	69,927	9,927	
雑収入	0	0	0	
当期収入合計①	45,420,000	49,602,927	4,182,927	
前期繰越金②	28,191,105	28,191,105	0	
収入の部合計①+②	73,611,105	77,794,032	4,182,927	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差額	備考
学科・支部援助費	12,000,000	10,067,769	△1,932,231	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,207,218	△292,782	
会報発行費	8,000,000	8,040,921	40,921	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
卒業記念品費	2,500,000	2,974,509	474,509	
準会員支援費	4,000,000	4,429,270	429,270	ロボカップジャパンオープン支援金
準会員奨学費	5,000,000	5,000,000	0	
[小計]	33,600,000	32,319,687	△1,280,313	
人件費	3,000,000	3,002,428	2,428	
消耗品費	200,000	427,639	227,639	
会議費	2,000,000	1,103,149	△896,851	
事務用費	300,000	113,200	△186,800	
私会同窓会連合会	150,000	52,000	△98,000	
雑費・手数料	250,000	246,312	△3,688	
[小計]	5,900,000	4,944,728	△955,272	
予備費	500,000	0	△500,000	
基本積立金へ	9,060,000	9,768,000	708,000	入会金
当期支出合計③	49,060,000	47,032,415	△2,027,585	
当期収支差額④(①-③)	△3,640,000	2,570,512	6,210,512	
記念事業準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0	
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	21,551,105	27,761,617	6,210,512	
支出の部合計③+⑤+⑥	73,611,105	77,794,032	4,182,927	
基本積立金(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費から繰入	9,060,000	9,768,000	708,000	入会金
前期繰越金	215,298,087	215,298,087	0	
収入の部合計	224,358,087	225,066,087	708,000	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	224,358,087	225,066,087	708,000	
支出の部合計	224,358,087	225,066,087	708,000	
記念事業準備費(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費から繰入	3,000,000	3,000,000	0	
前期繰越金	6,000,000	6,000,000	0	
収入の部合計	9,000,000	9,000,000	0	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	9,000,000	9,000,000	0	
支出の部合計	9,000,000	9,000,000	0	

「瑞若会特別賞」を授与

研究室、同好会などが研究の成果や活動を競う工科展は、10月8日に行われ、今年は3団体が参加。審査の結果、「戸伏・松井・武田研究室」に瑞若会特別賞を授与しました。

また、11月8日に開催された第36回愛工大駅伝大会では、「Sentence Spring」「駅伝だよ!職員集合!男女混合チーム」「剣道部4」の3チームに瑞若会特別賞を授与しました。



工科展で特別賞を授与

駅伝大会で特別賞を授与

駅伝大会の様子